峡東地域教育情報誌 169 号（令和６年度３月号）

ＰＤＦ版はこちら
峡東教育事務所のＨＰに掲載中！
「エリアウェッブ」で検索

合唱交流会～塩山北中学校ブロック交流研究会～甲州市立塩山北中学校・大藤小学校・神金小学校・玉宮小学校

１１月２７日に、塩山北中学校と大藤・神金・玉宮の３つの小学校とのブロック交流研究会として、合唱交流会が行われました。大藤小学校は全校児童３７人、神金小学校、玉宮小学校は３～６年生のそれぞれ２４人、１５人が塩山北中体育館に集まりました。

始めに塩山北中学校２２人による合唱が披露されました。１曲目は今年のNHK全国学校音楽コンクール中学校の部の課題曲であった緑黄色社会の『僕らはいきものだから』、２曲目は、元中学校の先生でクラブ活動の指導中のけがで手足の自由を失った、詩人で画家の星野富弘さん作詞の『母の手』が演奏されました。

みんなで発声練習

その後は塩山北中の水上陽介先生の指導により、『塩山北中の生徒たちが、普段どんなことをしているのか体験してみよう』と、小学生も一緒に体幹トレーニングや発声練習を行いました。

神金小学校　校歌

大藤小学校　校歌

玉宮小学校　校歌

発声練習も終わり、いよいよ小学生の成果発表です。水上先生が「自分の学校の校歌だと思ったら、立って歌いましょう」と呼びかけて、ピアノを弾き始めました。最初の曲が流れると神金小の児童たちが立ち上がり、大きな声で校歌を歌いました。最初の出番でしたが、発声練習の成果が十分に発揮されました。次の校歌は大藤小です。しっかりとした歌声が響きます。最後は玉宮小です。今回参加の中では人数は少ないですが、体育館いっぱいに校歌が響いていました。

『翼をください』の大合唱

そして、参加者全員による『翼をください』の大合唱。大人数の合唱でしたが、参加者の心がひとつになったような美しい響きでした。

塩山北中学校吹奏楽部による『小さな世界』の合奏が披露され、最後は塩山北中学校全校生徒による『虹』、『３６５日の紙飛行機』が手話やトーンチャイム、水上先生のフルートが入った合唱で会は締めくくられました。

手話つきの合唱

４校での交流は今年度で最後となりますが、この地域での交流は続いていきます。その中で、今日の素晴らしい歌声が受け継がれていってほしいと思います。

岩崎保育園を招いての１ねんせいまつり～祝小まつり～　甲州市立祝小学校・社会福祉法人さくら福祉会幼保連携型認定こども園岩崎保育園

まとあてやさん

どんぐりめいろやさん

どんぐりごま

１２月１３日に祝小学校体育館において、岩崎保育園の年長５歳児あお組さんたち２１名を招いての１年生まつりが行われました。１０人の１年生たちにより、体育館に『まとあてやさん』、『どんぐりめいろやさん』、『どんぐりごま・どんぐりとばし』、『どんぐりホッケー』の４つのお店が開かれ、園児たちが５～６人のグループを作り、お店を回りました。お店では、１年生たちがカードにスタンプをおし、丁寧なルール説明を行った後に、園児たちがそれぞれの遊びを楽しんでいました。『めいろやさん』ではいくつもの迷路が用意されていたので、１種類で遊んだ園児が「次はこれやりたい。」など積極的に遊んでいました。また、『どんぐりごま』では、３人の園児たちが「今度は同時に回して、どっちが長く回るか競争だ。」などと自分たちで遊び方を工夫していました。今回は『秋を見つけよう』という学習のまとめとして、自然のもの『どんぐり』を用いた遊びとなりました。

1年生からあお組さんへプレゼント

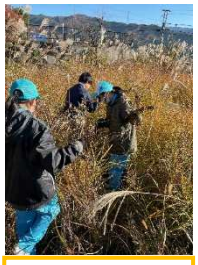
この日の甲州市勝沼の最低気温は-3.9℃でした。体育館にはヒーターがついていたとはいえ、かなり冷え込んでいました。しかし、子どもは風の子、そんなことは関係なく元気に仲良く交流していました。

終わりの会の感想では園児たちから「まとあてやさんが楽しかった」や「３００点が取れてうれしかった」などの声が聞かれました。実は２週間ほど前には１年生たちが、２年生が開いてくれたお店で遊ぶ機会があったそうです。そんな２年生の姿に倣い、１年生が園児たちを楽しませることができました。

地域の畑で小中連携～大豆収穫体験～　山梨市立笛川中学校・笛川小学校

「茶色じゃなくて緑色だ。」などの気づきもありました。

１２月３日に笛川中学校１年生２４名と笛川小学校６年生１７名が、山梨市牧丘町の畑で大豆の収穫体験を行いました。昨年までは中学生だけで行っていましたが、小中連携の一環として今年度は、種まきと収穫を小中学生が一緒に作業することになりました。


雑草をかき分けて宝探し

講師は笛川中の学校運営協議会委員の澤登早苗さん。「今日は宝探しだよ。雑草をかき分けながら大豆を探すよ。」例年はこの時期には霜などのために雑草が枯れているので、大豆の収穫がやりやすかったのですが、この日は、まだ雑草が青々と生い茂っていました。「でも、みんながまいた種は確実に実になっているよ。」雑草の中から大豆を見つけたら、そっと引き抜いてブルーシートの上でさやから大豆を取り出します。

子どもたちは「ここにあるぞ」「どこどこ？」などと言いながら、熱心に作業をしていました。小学生が宝探しをして、中学生がブルーシートに運ぶなどの協力体制も見られるようになりました。作業が進むと、子どもたちから「わーバカがいっぱいついた。」の声が上がりました。そこに澤登さんが「それはせんだん草って言うんだよ。」と教えてくれました。また、澤登さんはマメ科のものは種をまけば収穫できるということや、根についた粒々は根粒菌といい、窒素をアンモニアに変える働きがあり、大豆の成長に大きく影響することなどいろいろなことを教えてくれました。大豆の収穫を通して、さまざまな学びがありました。

６月に 720g の種をまいて、2.2kg の収穫でした。今年は約３倍に増えました。今後は、収穫した大豆を使って味噌づくりを行い、味噌の販売を行う計画もあるそうです。また、その味噌と地域で収穫した野菜を使ったほうとうづくりも予定されています。

第一線で活躍する卒業生による講演会～サイエンスアカデミー～県立日川高等学校

クイズ「高電圧ってどのくらい？」

１２月１４日に日川高校において、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の活動の一環としてサイエンスアカデミーが開催され、OB の東京都立産業技術研究センター・三井雅史さんが「電気絶縁・高電圧試験による中小企業支援と研究開発」をテーマに講演を行いました。当日は日川高校の生徒のほか、中学生の参加もありました。

講演は三井さんの大学・大学院時代の研究についての話から始まりました。燃料電池とはどのようなものかという話から始まり、身近な実用例や、山梨県が燃料電池の開発に力を入れていることなどが紹介されました。続けて、現在勤務されている東京都立産業技術研究センターについての話になり、ご自身が大学等で研究してきた知識や経験を活かせる場としてこの職場を選んだことや、東京都の企業全体の 98.9%を占める中小企業に対し応用研究や技術開発を行っていることなどが語られました。

電気絶縁・高電圧試験については、参加者が回答するクイズを交えての話となりました。さらに、電気を高電圧で送ることにより、電力消費が抑えられる仕組みなどがわかりやすく説明されました。また、高電圧試験の目的についての説明後、その実験の様子を動画で確認もしました。

活発な質疑応答が行われました

講演の後、参加者からは多数の質問が寄せられました。ある日川高校生からの「今日のお話には現在授業で学んでいる用語や式などがたくさん出てきました。最先端の研究でも高校の勉強は必要ですか。」という質問に対して、三井さんは「最先端の研究といっても、高校や大学の始めで学ぶ基本的なことの積み重ねなのです。」と回答されました。また、参加した中学生からは「中高校生のうちにやっておいた方がいいことは何ですか？」という質問が寄せられ、三井さんからは「間違ったことは確認をするようにしておくこと。いろいろな教科を学ぶこと。研究をすると文章を書く機会も多いので、現代文などもしっかりと勉強した方がいいです。」というアドバイスがありました。

地域活性化プロジェクト 2024 よりよい社会をつくる ～私の進路と SDGs～ ～探究活動全体発表会～県立塩山高等学校

探究の成果を堂々と発表しています

塩山高等学校では、３学年の総合的な探究の時間において、『社会の中で生きる』をテーマに探究活動を行ってきました。SDGs を探究の柱に据えて、自己の進路と SDGs を見つめることで、探究課題に取り組んできました。１２月１０日に研究成果の発表が行われ、この日は文部科学省の齋藤博伸調査官をお迎えし、３年生の代表の７グループの発表がありました。

１組目は、ホテル業に就職する生徒たちが、宿泊業における食品ロスの問題を扱った『ホテル業の食品』。２組目は、うつぶせ寝による突然死を探究した『AI を取り入れた保育』。３組目は、『自分自身が「福祉」の一員であることを知ろう』をテーマに、助けを求めやすい環境作りについて発表しました。４組目は、ユニクロにも取材をして、ジェンダーレスファッションについて探究した『好きな服を自由に』。５組目は、『困っていることがあったら相談しよう』をテーマに、若者の自殺率の問題をスクールカウンセラー制度とあわせて論じていました。６組目は、農業人口の減少の問題と県内の農業の技術革新について、YSK e-com に取材した『AI/IoT を利用したスマート農業の普及』。７組目は医療・看護の分野への進路を考えている生徒たちが、『薬物依存の防止・治療の強化』についての探究発表をしました。

メモをとりながら発表を聞きます

質疑応答は、発表者以外の生徒たちが質問事項を Forms に入力し、発表者がその中から１つだけ選び回答するという形式で行われました。非常に多くの質問が寄せられており、発表者はそれらの質問に対してしっかりと明確に回答していました。

齋藤調査官は講評のなかで、さらに探究を深めるアイディアや生成 AI の活用についてのお話をされていました。

まちづくり推進事業～自主学習環境の確保～　笛吹市役所市民環境部市民活動支援課・笛吹市御坂児童センター

まずは冬休みの宿題から

１２月２４日に、笛吹市役所の採用２～３年目の職員１３名が笛吹市御坂児童センターを訪れ、小学生たちの学習の支援等を行いました。

まずは学習支援、子どもたちは冬休みの宿題をやっています。わからないことは市役所の皆さんが教えてくれるので、とても熱心に集中して学習していました。休み時間になっても「もっと勉強したい」という発言も聞こえてきました。

絵フダに全神経を集中

続いてはSDGsカルタで遊びました。さっきまでの学習の姿からは一転、元気よく遊び始めました。フダをとるたびに大きな声があがります。「もう勝てないからやめる」などの発言もありましたが、「まだたくさんあるよ」と励ます声も聞こえました。

もちろん完成したらすぐに遊びます

最後は紙コップけん玉づくりです。新聞紙を丸めた玉に養生テープを巻き、たこ糸をつけて、２つの紙コップに絵を描いてから底部同士を貼り付け、けん玉として遊べるようにします。

市役所職員の皆さんも学習支援のときは学校の先生のようでしたが、カルタなど体験活動の支援のときには一緒に遊ぶお兄さん・お姉さんのようでした。子どもたちも、いつもと違う大人にいろいろ教わってほめられて、本当にうれしそうでした。

笛吹市市民活動支援課では、『子供たちが身近なところで自主学習が行える環境の支援』と『市民活動団体との協働を通して、若手職員の子育て世代支援への意識向上』を目的として、このような取り組みを令和４年度から行っています。この日に参加した子どもたちが大人になったときには、さらに子育て支援が充実し、子どもたちが思い切り学び遊ぶことができる笛吹市になっていることと思います。

なるようになる！なるようにする生き方！～しなやかな心の育成事業道徳講演会～　山梨市立山梨南中学校

１月２１日に山梨南中学校において、山梨県教育委員会「しなやかな心の育成」事業として、吉本興業でただ一人のスポーツＤＪ、ラジオＤＪ、声優、ナレーター、落語家、防災士である高杉 Jay 二郎氏を講師に道徳講演会が行われました。

いつもの講演会とは少し違う雰囲気

二郎さんは中学校時代、いじめにあったことをきっかけに登校拒否となり、３年生のときに「どこまで行けるか行ってみよう」と自転車で日本一周の旅をしたそうです。公園で野宿をした話、岡山県で見知らぬおばあさんに泊めていただいた話などを聞かせていただきましたが、二郎さんからは「みんなはマネしたらあかんで！」

つらい時に笑っているとちょっとだけ気持ちが軽くなることに気づき、大失恋の後、オール阪神・巨人さんの漫才をみて、「笑いのある仕事がいいな」と思い、吉本興業に入ったそうです。桂三枝（現在の六代目桂文枝）さんのお弟子さんとなり、その後単身アメリカへ。道場破りに入った合気道道場でスティーブン・セガール氏と出会い、助手となったことからアメリカでも映像の世界へ。「うまくいかないことの方が多かったけど、『まあ、えっか。なんとかなるか。』」という気持ちでなんとかしてきた。

講演会の最後には落語を一席

二郎さんから生徒たちに「人生は自分ではどうしようもできないことがたくさんおこる。誰も助けてくれないことも多い。でも、なるようになるから好きなことに没頭しよう。そこからチョコとだけ動いてみるとリアルな現状変化が起こる。そこで、なるようにする！すぐには結果が出ないけど、新しいことにチャレンジしてリアルな経験値を上げよう。」というメッセージが送られました。その後もカウンセリングやリスクマネジメント、失敗からの方が学ぶことは多い、資格、企業、生成 AI など話題は盛りだくさんで、あっという間の９０分でした。

多くの出会いと対話を重ねて社会をよりよくする力をつけよう～高校生世界農業遺産サミット～　県立笛吹高等学校

全体会は視聴覚室からの配信

１月２２日に笛吹高校において、高校生世界農業遺産サミットが開催されました。笛吹高校の生徒が、県内外で探究学習をしている高校生と、これまでの探究学習を振り返り、その成果や学びを共有することを目的として行われ、今回は県内からは北杜、甲府第一、甲府東、農林、日川の５校の生徒が参加しました。

午前中は視聴覚室から各教室および県外参加校に配信される形式で行われました。県内他校の生徒たちは笛吹高校の教室で参加しました。開会式、基調講演に引き続き、会場校の笛吹高校果樹園芸科の発表『シャインマスカットの販売と地域振興～台湾での販売 PR 活動から～』が行われました。県内の高校で初めて JGAP の認証を得たことや JA ふえふきと連携して栽培管理の指導を受けたこと、そして、令和６年９月に行った４回目となる台湾輸出販売 PR 活動についての発表でした。その後は県外から静岡県立静岡農業高等学校、徳島県立池田高等学校の２校の発表が行われました。

笛吹高校の発表

探究活動の振り返りセッション

午後は各教室で５名程度のグループに分かれての活動となりました。前半は『探究活動の振り返りセッション』として、各自が行った探究活動について発表を行いました。探究のテーマも『金川の森の古墳』、『水害対策』、『知的障害児への支援』、『パラスポーツの普及』、『笛吹市の移住定住者を増やすには』などさまざまでした。１人７分の発表に対し、活発な質疑応答が行われていました。県内他校生も慣れない場所での発表でしたが、自分の探究の成果をしっかりと発表していました。後半は『ミライを見つめるセッション』として、各自が探究活動で身につけてきた力を使って、世界農業遺産をよりよくするためにどのような活動ができるかを考えました。このことを通じて生徒たちは、自分自身の将来や生き方について深く考えていました。

生産物や製品を地域の方々に販売～桃花ダイスキマーケット～　県立高等支援学校桃花台学園

【MOMONOHANA BAKERY】

高等支援学校桃花台学園は県内唯一の高等部単独の特別支援学校として平成２７年４月に開校し、今年度創立１０周年を迎えました。

１月１７日に『桃花ダイスキマーケット』が開催されました。『桃花ダイスキマーケット』とは、生徒が各コースの専門授業で栽培・製造した農産物やパン・製菓などを校内で販売するお店のことです。月に１回開催しています。

『食品加工コース』はパンと焼き菓子の販売を行っていました。４個の焼き菓子が入った３００円の福袋も売っていました。また、パンでつくったイヤープレートも展示されていました。

【桃カフェ】

さらに、カフェブースも設けられており、買ったばかりのパンをコーヒーや紅茶と一緒にいただくことができます。カフェの店長の生徒は「笑顔の接客を心がけています。おいしい　おしゃれ　おもてなしがコンセプトです。」と話していました。広報委員会として生徒が地域の公民館で桃花台学園のダイスキマーケットの告知を放送しているとのことです。

【TOKADAI FARM】

『農業生産コース』は野菜や加工品の販売を行っていました。時期的にドライフルーツや干し柿、干し大根が主な商品でした。代表の生徒は「重いものはレジの近くに置いたり、似た商品は隣に置いたりと配置にも工夫しています。こういったことは将来スーパーで働くようになった時に役立つと思います。自分たちが育てた野菜を地域の人たちに買ってもらうと達成感が得られます。」と語っていました。

『環境メンテナンスコース』は売るものはありませんが、開店前にマーケット会場の設営と清掃、開店時には駐車場での誘導などで活躍していました。

お客様が帰る時にはアンケートの記入をお願いしていました。「お客様の声が私たちの励みになります。」

次回の『桃花ダイスキマーケット』は５月９日に開催の予定です。

活動実践全体発表会～まなびの活用を目指して～　　山梨ことぶき勧学院

１月２８日に県立文学館講堂において、『山梨ことぶき勧学院活動実践全体発表会～まなびの活用を目指して～』が行われました。県内６教室の全生徒が集い、各教室の２年生がそれぞれ『山梨県の特産』、『地震』、『災害から地域住民を守る』、『城下町都留の魅力』、『大月空襲』、『根津嘉一郎』をテーマにパワーポイントによる発表を行いました。

山梨県の特産について

甲府・峡東Ｂ教室は『山梨県の特産について』をテーマに、各班が『水晶・宝飾』、『水』、『印伝』、『ブドウ・ワイン』について、それらの山梨県の特産としての成り立ちや現在の状況、さらには今後の展開について、実地調査を行うことにより得た知識や情報をわかりやすくまとめて発表しました。

山梨が生んだ稀有な実業家　根津嘉一郎の自己実現力を探る

甲府・峡東Ａ教室は、今年度から教室名が『甲府・峡東』になったことを受け、現在の山梨市で生まれた根津嘉一郎について『山梨が生んだ稀有な実業家　根津嘉一郎の自己実現力を探る』と題し、政治家、実業家、茶人、美術収集家、慈善家などさまざまな切り口から根津嘉一郎という人物に迫りました。

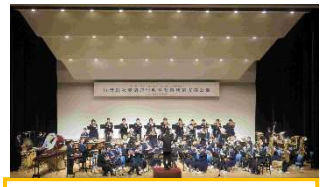
どの教室の発表も、それぞれに個性的で、さまざまな工夫がなされていました。会場はほぼ満席で、発表者はやや緊張気味でしたが、勧学院の活動を対外的にアピールする素晴らしい発表会となりました。生徒の皆さんには、勧学院での２年間のまなびを、卒業後も継続していただき、今後もご活躍されることを期待します。

【現在、令和７年度の学生募集中。詳細は右のQRコードから】

世代を超えた吹奏楽の一大イベント～峡東支部吹奏楽祭～山梨県吹奏楽連盟峡東支部

２月９日に甲州市民文化会館において、第２３回やまなし県民文化祭・第６３回山梨県吹奏楽祭　山梨県吹奏楽連盟峡東支部吹奏楽祭が開催されました。『山梨県吹奏楽祭』は、以前は県全体の行事として開催されていましたが、地域に根ざした吹奏楽活動を目的に、支部ごとで実施するようになってから２０年以上が経ちました。今では支部ごとの開催がしっかりと定着しています。

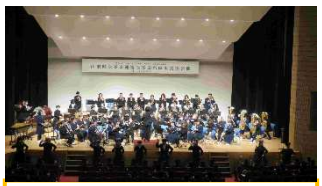
塩山北中学校


日川高・一宮中・春日居中・山梨北中

この日も峡東地域の中学校・高校の吹奏楽部に加えて、峡東地域の４つの一般団体『山梨市民吹奏楽団』、『パーカッションアンサンブル hydge』、『アンサンブルパルス』、『Calces』が出演しました。少人数のアンサンブルやいくつかの団体の合同バンドなど、さまざまな形態での演奏が会場を包み込み、満員の客席からは出演者に惜しみない拍手が送られていました。

笛吹高・浅川中・石和中・笛川中・塩山中

塩山高・山梨南中・勝沼中・御坂中・山梨市民吹奏楽団の合同バンドは中学１年生から上は６０代の方まで、約７０名での演奏となりました。この日に向けて２回の合同練習を行ったそうですが、その中で山梨市民吹奏楽団の方々から中高生へ楽器の演奏技術の指導も行われてきました。出演した中学生に話を聞くと、「大人の方と一緒に練習をして、自分の音を聞いてもらい、アドバイスをいただいたことが大きな学びだった。曲の表現などについても教えていただき、演奏のクオリティが上がった。」と感想を述べていました。山梨市民吹奏楽団の方からは、「私たち大人が音楽を楽しんでいる姿を中学生に見てもらって、楽しい音楽活動を高校生や大人になっても続けていってもらいたい。」との声が聞かれました。


塩山高・山梨南中・勝沼中・御坂中・山梨市民吹奏楽団
ジャンボリ・ミッキーでは舞台前でダンスも

吹奏楽祭の合同演奏のための練習以外にも、一般団体の方々が中学校や高校に技術指導に行く機会もあるそうです。部活動の地域展開が進んでいますが、地域の活動と部活動が融合した吹奏楽祭がこれからも地域を盛り上げていってくれることでしょう。